

# 物理数学 -偏微分方程式-

いろはの学習備忘録

<http://168iroha.net>

最終更新 2018 年 11 月 4 日

# 目次

第 1 章	偏微分方程式	1
1.1	ポアソン方程式 . . . . .	1
1.2	波動方程式 . . . . .	2

## 第 1 章

# 偏微分方程式

### 1.1 ポアソン方程式

定義 1.

$\mathbb{R}^3$  における  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3$  による領域  $V(\mathbf{x})$  で  $f(\mathbf{x})$  が定義されているとする。このとき、 $u(\mathbf{x})$  について

$$\Delta u(\mathbf{x}) = f(\mathbf{x})$$

という偏微分方程式が与えられたとき、これをポアソン方程式という。

ポアソン方程式の解法を考えたとき、ラプラシアンが存在するため変数分離等で解くのは困難である。そこで、グリーン関数を用いることでポアソン方程式の解を求める。

ここで、以下の補題を与える。

補題 1.  $\mathbf{x}, \mathbf{x}' \in \mathbb{R}^3$  が与えられたとき、 $\mathbf{x}$  におけるラプラシアンとデルタ関数  $\delta(\mathbf{x})$  について

$$\Delta_{\mathbf{x}} G(\mathbf{x} - \mathbf{x}') = \delta(\mathbf{x} - \mathbf{x}')$$

が与えられたとき、これを満たす  $G(\mathbf{x} - \mathbf{x}')$  は

$$G(\mathbf{x} - \mathbf{x}') = -\frac{1}{4\pi|\mathbf{x} - \mathbf{x}'|}$$

となる。

*Proof.*

$G(\mathbf{x})$  のフーリエ変換を  $\mathbf{s} = (s_1, s_2, s_3)$  を用いて  $\mathcal{G}(\mathbf{s})$  とすれば、

$$((is_1)^2 + (is_2)^2 + (is_3)^2)\mathcal{G}(\mathbf{s}) = -|\mathbf{s}|^2\mathcal{G}(\mathbf{s}) = \int_{\mathbb{R}^3} \delta(\mathbf{x})e^{-i(\mathbf{s}\cdot\mathbf{x})}dV(\mathbf{x}) = 1$$

となり、

$$\mathcal{G}(\mathbf{s}) = -\frac{1}{|\mathbf{s}|^2}$$

が成り立つ。これを逆変換することで

$$G(\mathbf{x}) = -\frac{1}{(2\pi)^3} \int_{\mathbb{R}^3} \frac{e^{i(\mathbf{s}\cdot\mathbf{x})}}{|\mathbf{s}|^2} dV(\mathbf{s})$$

とあらわされる。ここで、 $\mathbf{s} \cdot \mathbf{x} = |\mathbf{s}||\mathbf{x}|\cos\theta$  となるように

$$\begin{cases} s_1 = r \sin \theta \cos \phi \\ s_2 = r \sin \theta \sin \phi \\ s_3 = r \cos \theta \end{cases}$$

と極座標変換すればヤコビアンは  $r^2 \sin \theta$  であるため,

$$\begin{aligned} \frac{1}{(2\pi)^3} \int_{\mathbb{R}^3} \frac{e^{i(\mathbf{s} \cdot \mathbf{x})}}{|\mathbf{s}|^2} dV(\mathbf{s}) &= \frac{1}{(2\pi)^3} \int_0^\infty \int_0^{2\pi} \int_0^\pi \frac{e^{ir|\mathbf{x}|\cos\theta}}{r^2} r^2 \sin\theta d\theta d\phi dr \\ &= \frac{1}{(2\pi)^2} \int_0^\infty \int_0^\pi e^{ir|\mathbf{x}|\cos\theta} \sin\theta d\theta dr \\ &= -\frac{1}{(2\pi)^2} \int_0^\infty \int_0^\pi \frac{1}{ir|\mathbf{x}|} \frac{\partial}{\partial\theta} (e^{ir|\mathbf{x}|\cos\theta}) d\theta dr \\ &= -\frac{1}{(2\pi)^2|\mathbf{x}|} \int_0^\infty \frac{1}{ir} (e^{-ir|\mathbf{x}|} - e^{ir|\mathbf{x}|}) dr \\ &= \frac{1}{(2\pi)^2|\mathbf{x}|} \int_0^\infty 2 \frac{\sin(r|\mathbf{x}|)}{r} dr \\ &= \frac{1}{(2\pi)^2|\mathbf{x}|} \cdot 2 \cdot \frac{\pi}{2} \\ &= \frac{1}{4\pi|\mathbf{x}|} \end{aligned}$$

となり, これを  $\mathbf{x}'$  だけ平行移動させることで

$$G(\mathbf{x} - \mathbf{x}') = -\frac{1}{4\pi|\mathbf{x} - \mathbf{x}'|}$$

が得られる.

よって, 命題は証明された.

□

この補題により, ポアソン方程式の解を求めることができる.

ポアソン方程式の解

$\mathbb{R}^3$  における  $\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3$  による領域  $V(\mathbf{x})$  で既知関数  $f(\mathbf{x})$  と未知関数  $u(\mathbf{x})$  についてポアソン方程式

$$\Delta u(\mathbf{x}) = f(\mathbf{x})$$

が与えられたとき, その解は

$$u(\mathbf{x}) = -\frac{1}{4\pi} \int_{V(\mathbf{x}')} \frac{f(\mathbf{x}')}{|\mathbf{x}' - \mathbf{x}|} dV(\mathbf{x}')$$

となる.

*Proof.*

グリーン関数  $G(\mathbf{x})$  はデルタ関数  $\delta(\mathbf{x})$  によって

$$\Delta G(\mathbf{x}' - \mathbf{x}) = \delta(\mathbf{x}' - \mathbf{x})$$

とあらわされるが, 補題より

$$G(\mathbf{x}' - \mathbf{x}) = -\frac{1}{4\pi|\mathbf{x}' - \mathbf{x}|}$$

である. よって, ポアソン方程式の解は

$$u(\mathbf{x}) = \int_{V(\mathbf{x}')} G(\mathbf{x}' - \mathbf{x}) f(\mathbf{x}') dV(\mathbf{x}') = -\frac{1}{4\pi} \int_{V(\mathbf{x}')} \frac{f(\mathbf{x}')}{|\mathbf{x}' - \mathbf{x}|} dV(\mathbf{x}')$$

となる.

よって, 命題は証明された.

□

## 1.2 波動方程式